

参加型で学ぶ人権

②人権問題意識シート

必要なもの	筆記具（鉛筆でもボールペンでもいい） 人権問題意識シート（コピーして人数分）
適当な人数	何人でもいい。偶数人の方が良いが、奇数人であれば、ファシリテータ（教師）が対応します。
時間	20分～30分程度

方法

参加者は人権問題意識シートに、自分の半生を振り返りながら人権問題についての関心度の変化をグラフ化して記入していきます。様々な形の人権問題を含みます。例えば、事故をして車椅子に乗らなければならなくなったり、骨折して杖をつかなくてはならなかった時には人権問題について強く考えることでしょう。また家族や友人のなかでこうした状況になった人がでた時にも意識が高まるでしょう。急に高くなったり、落ちたりしたところには具体的にどういうことがあったのか、記入します。

まずは、グラフを完成させます。その後で、隣に座っている人と交互にそのグラフについて説明をします。できるだけ感想も交えて話し合うのがいいでしょう。人数が少ない時には全員で順番に説明していても良いでしょう。よくわかるようにカラーマジックを使うのも効果的。記入例を次ページに載せます。各個人が工夫してわかりやすく記入するといいでしょう。

ねらい

自分がいつ、どのような切っ掛けで人権問題に関心を持つようになってきたかを把握するためのアクティビティです。自分自身様々な機会の人権問題に遭遇するようになってきたことを自覚できるでしょう。人権問題が幅広く生活の中に入り込んでいることを確認することができます。また他の人がどのような切っ掛けで人権問題に関心を持っているのか、またそれについてどのような意見を持っているのかについても学ぶことができます。人権問題についてどのように接していくべきなのか、どのように考えていくべきなのかなどを考える良い機会となるでしょう。

このように□□シートという形で様々な応用が可能です。例えば、環境保護意識シートも考えられます。これまでの人生の中で、環境問題に対しての意識の変化をグラフ化してみるものです。また、幸せシートとして、人生の中で幸せだと感じた度合いをグラフ化するのもいいでしょう。生徒が教師に説明するなら、ちょっとした人生相談にもなります。

人権問題意識ノート（例）

